

大日本コンサルタント株式会社

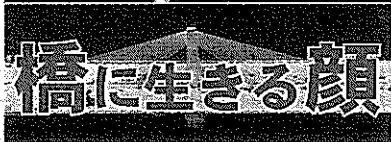
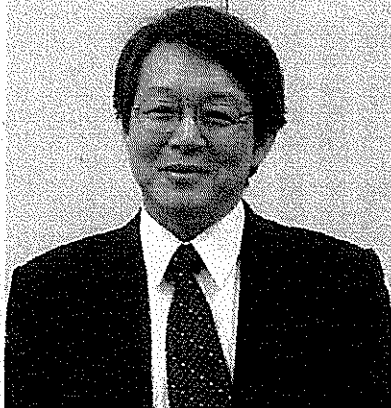
保全エンジニアリング研究所長

笠井 利貴さん

大日本コンサルタントが4月1日付で設立した保全エンジニアリング研究所の初代所長に就いた。

これまでも保全を専

ウは橋梁の維持管理マネジメントシステム「道の知恵袋」などに生かされる。主に自治体向けのシステム。導入・運用の設備投資を



橋の声を聞く

門とする部署はあった。中部支社に赴任していた当時、主に中京圏を営業範囲に保全対応部署を創設。その後、対象が全国に広がり、本社で責任者に。点検や診断、補修計画づくりからメンテナンスまで、橋梁・構造物維持管理の体系化を進めてきた。そのノウハ

抑えつつ、構造物を効率的に維持管理できる仕組みにまとめた。既存構造物の補修計画や、「道の知恵袋」などで地方自治体の仕事を中心に徐々に伸ばしてきた。それでも、新設に比較すると、「まだまだ及ばない」。ただ、そうした日々の営業活動のなかで、かつ

てない「建設の時代から管理の時代へ」、発注者や住民の意識の変化、「その風を感じている」。その機運が研究所設立を後押しした。

少年時代は校歌に唱われていた伊勢大橋を毎日眼下に眺めて育つ。そして、大学卒業後大日本コンサルタントに入社。当初から大きな橋の設計に注力してきたが、年齢と共に現場から少し距離を置く業務管理が取って代わる。呼心して「橋への思い入れが薄くなった時期を経験。ただ、業務管理に当たるところに「今ある橋を大切に」して残してやろう」と、一度離れた気持ち再び橋へと戻った。現場によく足を運ぶ。「保全は現場をみるのが大事。損傷箇所だけ写真で見ても判断するのは無理がある。現場にいれば橋の声を聞こえる気がして、本質的な解や抜本的な対策がだせる」

三重県出身。新潟大工学部卒。(根津寿子)